



年 組 名前

## 道新ワークシート

## 旧拓銀物故者の神社修繕

## 北海道神宮が費用負担

「拓銀」の名をいつまでも。札幌市中央区の北海道神宮は、境内で旧北海道拓殖銀行の物故功労者をまつる「穂多木神社」を大規模修繕した。

老朽化により拓銀OB側は取り壊しも考えたが、開拓時代から道内経済を支えた拓銀の名を残そうと、管理する神宮が費用

を負担して残すことに。OB側は恩返しで奉賛金を募る考えた。

同神社は1938年（昭和13年）に拓銀本店屋上に建立され、50年に神宮境内に移った。由来は北海道の「ほ」、拓殖の「た」、銀行の「き（ぎ）」を取ったとされる。規定により歴代頭取や役員ら



826柱が合祀されており、97年の経営破綻後は増えていない。現在神宮に役員として関わる拓銀OB

大規模修繕で屋根などが真新しくなった「穂多木神社」

の A さん(77)は2年ほど前、例祭に参加する遺族の減少や建物の老朽化を踏まえ、OB仲間と共に取り壊しを検討。だが神宮側は「拓銀の名に関するものが全てなくなるのはもったいない」として再考を促していた。

そんな中、今年2月、大雪の影響で屋根の装飾部分が破損。神宮は銅板屋根のふき替えなどを含む修繕を行うことにした。3月には同じ境内の開拓神社に御霊を遷座させ、工事完了を受け10月中旬に遷し直した。費用は数百万円。

拓銀OB側は修繕費の一部に充ててもらおうと、OB会の「拓友会」を通じ道内外の会員らに寄付を呼び掛け、来春に納める予定。Aさんは「拓銀の歴史が紡がれることになり、大変ありがたい」と喜ぶ。（金子俊介）

2024年11月23日(土) 朝刊 全道版 29ページ (記事は再編集しています)

- ① 「拓銀」とは何の略語でしょう。
- ② 「穂多木神社」は、以前はどこにあり、現在はどこにありますか。それは、いつからそこにあるのですか。
- ③ 拓銀OBや北海道神宮関係者が残したいと思ったのは何でしょう。思いっただけ挙げてみましょう。
- ④ あなたが「残ってほしい」「残したい」と思うものとその理由を書きましょう。